



異郷の地の少女

第家となった。 第家となった。 業家となった。 大正時代のはじめ、渡口さんの父親は一攫千金を目指さんで日本の植民地時代があり、大正時代のはじめ、渡口さんの父親は一攫千金を目指し比国に向かった。ミンダナオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカオ島タグンという町で、アバカ

らでビーチョン(豚の丸焼き)の邸宅があり、多くの日本人、たのだろう。事業も繁栄し、たのだろう。事業も繁栄し、たのだろう。事業も繁栄し、たのだろう。事業も繁栄し、たのだろう。事業も繁栄し、っているため、船舶用ロープれているため、船舶用ロープなどに利用されていた。

の頃だ。 の頃だ。 の頃だ。

人社会が翻弄されていく。 (昭和 大社会が翻弄されていく。 大社会が翻点が活発化し、日常的なゲリラ活の敗色に伴い、比国の独立運動に加え、何よりも米軍の空爆動に加え、何よりも米軍の全場が熾烈を極め、比国の独立運動

シムセン 渡口 壽子さん

(平成12)年、現在地で「梅南座」を開業した。 その父親の三女として、1937 (昭和12)年12 その父親の三女として、1937 (昭和12)年12 くは沖縄県出身で、海外にビジネスの夢を求めた

B.K.C.



フィリピン ダバオでの記念写真(1937年) 前列左から2人目が渡口さんの父。同3人目が母。母の膝には渡口さんの亡兄。同4人目は父の弟、同じく5人目男性の膝には、渡口さんの亡姉が写る。渡口さんはこの時、母のお腹の中だった。

ジ ヤ ン グ 0 少 女

くゲリラと疑われて処分され 膨らんでいた」と話す。 て離れない。穴に土をかぶせ死 然とした青年たち二人の顔と、 ショックを受けた。今もその毅 をハネた。私はその現場を見て やってきた。周辺に大きな穴を と、複数の諜報員とみられる日 いう場所で休んでい 穴は死体が発酵して大きく を埋めていたが、その後、そ を切られた光景が焼きつい 人が、手をくくられた風体の 「タグンから追われてジャン い比国人の青年2人を に入り、み いきなり軍刀で二人の首 な マ た。 グップと おそら する 連れ

報を教えてくれたが、日本人社 会に入りこむゲリラたちの情 が、いろいろ周辺の村々の情 「親しかった比国人の叔母さ

> タマジャ お の 目 る。とにかくだれもが食べ物に 網ですくっては、内臓を捨てて た海老や川魚を待ちうけ、現地 河川では、青酸カリを川上から 本兵もいた。また周辺を流れる 缶に集め、それを食べていた日 食料がないので、湿地に泳ぐオ さを知らずに入ってそのまま た」。「そんな湿地があちこち池 死体が浮いて血の色で染まり、 水没してしまう。そのジャン いた。ジャングルの中は湿地帯 ち日本人は疑心暗鬼になっ 報は疑わしいもので、 べていたことを記憶し し、死んで下流に流されてき ぼれ死んでいった人もいた。 ように広がり、逃げる際に深 をそむける悲惨な眺めだっ っていた。湿地には あい、木の枝などにもぶら下 人や日本人がそれ 、半身まで埋も では日本兵の死体が重な クシを捕まえて空き れるぐ ら獲 わたした いっぱい てい







「ダバオ慰霊と交流の旅」の記念画像(2015年7月、フィリピンダバオにて)

沖縄摩文仁丘にて(2015年5月) フィリピンミンダナオ島ダバオで戦没した人たちへの慰霊塔 左:「平和友好の碑」に食べ物を献上する 右:渡口さんとお孫さん

と話し涙をふきながら語った。 亡くなった人たちが言っている」 、この機会だからこそ喋れ、と 話をしていいのか迷っていたが お願いした経過があ てもらうために本誌に登場 りをとくに若い はいた。そこで、渡口さんの ら、比国での体験を聞かされ わたしは、それまで渡口さん 渡口 さんは「これまでこんな 人たちに聞 る。

塩と少女

塩を入れ持ち歩いていた。なに 61 塩は大切な食料だからね」。 う密林の中をドンゴロ 「わたしたちは、 タモガンと スに

語りで、より鮮明にイ 品を残した作家を思い出し 酷な体験をし、すぐれた作 ジできた気がした。 た。その著作が渡口さんの 渡口さんの話から、同じ 比国の敗残兵として過 小説の

> 叙述である。 主人公が、比国人の食料を奪う ため、銃で殺害したそのあとの

岡昇平著 『野火』 新潮文庫)。 のであった。塩であった」(大 生存にとっても、甚だ貴重なも 等人類の生存にとっても、私の 中に薄黒く光る粗い結晶は、彼 ゴロスの袋が口を開けていた。 板が挙げられ、下に一つのド に彼等の行為の跡を探した。床 来た理由に好奇心を起こし、室 「私は私の犠牲者がここまで

に入港。日本に帰ってき の輸送船に乗せられ、横須賀港 容所に入れられた。そして米国 月半をジャングルで過ごし、そ 日から敗戦後の8月16日の4ヵ 代にはまだ使われていた。 の後、ドフガンという米国軍収 な布袋のこと。わたしの少年時 ンゴロスとは麻で織った丈夫 大切な塩をドンゴロスに入れ 渡口さんらは、逃避行の際に ち歩いていたというのだ。ド 945(昭和20)年4月 た。

大衆演劇の雄、美里英二氏と(1989年鶴見グランド劇場にて)

知人、そして、おびただしく殺 亡くなった姉弟、親戚、比国の の旅なのだ。 る。渡口さん個人の義務とし ちへの哀悼とも供養ともい されていった名も知らぬ人た ジャングルでの逃避行に加え、 口さんが、少女時代に体験した た後で行われた。その旅は、渡 は、比国への慰霊の旅が終わ なった」と話す。この聞き取り 加者は100人ほどで少な ていたが高齢に伴い、今年の までたくさんの 旅をしている。「慰霊には 渡口さんは毎夏、比国 人が参加 慰霊 参 つ

害者や。 者としての深い嘆きを聞か もやられたほうも、どっちも被 もらいたい。戦争をやったほう ら、政治家さんに先頭で戦って かん。戦争は人間が人間を忘れ た思いだった。 せる」という言葉に、 渡口さんが「今度戦争する もう絶対戦争し 実体験 たらい

文責:佐々木

6





訓に201

1年から防災教育が熱心に行

鶴見橋中学校では、東日本大震災を教

われていることは、いろいろなところか

学習会の様子

実施時から関わって防災教育を担当して

いる鶴見橋中学校の木下先生と話をして

いるように感じました。そういったことで、

育については、聞くことが少なくなって で中心的課題として行われてきた人権教 ら聞き理解していました。しかし、これま

きました。以下は先生のお話です。

担当を命じられた当初は、防災よりもさ

生の話を聞いていなかったり、寝ているこども

その報告をした全校集会。普段の授業中は先 地を訪れ、たくさんのことを学んできました。 年の夏、生徒会の代表3名と教職員2名が被災 取り組みを進めてきました。しかし、201 まざまな課題があるのではと疑問に感じながら、

たちが一生懸命に聞き入る姿を目の当たりに

し、こどもたちはもっと変わるのではないかと

:鶴見橋中学校 E

こどもたちを育むには、学校と家庭に加え地域の役割

がとても大切です。ただ、学校がどんなことをしてい

るのか知っている人は案外少ないのでは?ということ で、これから学校の様々な出来事や取り組みをお知ら

感じました。

せしていきます

て自分自身も感動しました。こどもたちにも

トで東北へ行きました。現地の方の話を聞い

そのこともあって、他の教職員とプライベー

体育館での仮設所体験

は自分や家族、まわりの命を守ることだけでは ことになっていくと確信しました。 育の土壌をつくる大きな役割を果たしていく ます。そういった意味では防災教育は人権教 てはいけないことも自然に伝えることができ ことができれば、人を傷つけることや差別があっ あると感じました。「いのち」を大切に感じる とにもつながるとても意味のある取り組みで く、「いのち」の大切さを感じたり、考えるこ

話を聞いたりする取り組みも行いました。わ の報告をする機 ても真剣でした。また、中学生が小学校に現地 会をおこなった時にもこどもたちの表情はと ずかな日数ですが、被災地で学び、学校で報告 人が実際に現地に行って、被災された方たちの また、2011年には、こどもたちの代表数

本当に簡単になくなってしまう」という話を聞

いたこどもたちの目はとても真剣な目をして

いました。

その後も、さまざまな形の学習会を重ねる中

の数時間後に彼女は行方不明になった」、「もっ

ご飯を食べたそ

小学校での発表

した。「彼女と昼

学習会を行いま

方を講師に招き、

県で被災された

た。そして、岩手 大きくなりまし 気持ちがとても 伝えたいという ぜひ「生の声」を

と大切に時間を過ごせばよかった」、「人の命は

懸命伝える同級 剣に聞いていま ろ、普段は落ち着 生や先輩からも じたことを一生 中学生の話を真 かない小学生が した。被災地で感

活動」やボランティア活動にも自主的に参加す また、年末に野宿している人たちへの「夜回り で言い合えることはとても素敵だと感じました。 ました。先生が注意するのではなく、自分たち アカンわ」と自分たちで言い合えるようになり のに!」という言葉が出ると、「それは言うたら も同士の会話の中で「死ね!」、「死んだらいい で、こどもたちに変化が表れてきました。こど

るこどもたちも増えました。防災の取り組み

会を設けたとこ

被災地での学習・交流

り組みは2013年からは毎年行われていま 被災地へこどもたちの代表に行ってもらう取 直近の取り組みとしては、今年9月4日・5

何かを感じたと思います。「とてもカッコよかっ

い」という感想をもった小学生もいたそうです。 た」、「中学校にいったら防災の取り組みをした

こどもたちはとてつもない力を発揮できるこ 識の中には、大人がすべて準備して、こどもた て強く思いました。 取り組みをどんどんつくっていきたいと改め とを教えてもらいました。こどもの心に響く 思いますが、心に響くようなできごとがあれば、 ちはそれに従って動くという先入観があると ちで進めるようになったそうです。我々の意 ろ考えて、行動するようになり、会議も自分た ようにしてみたら、こどもたちが自分でいろい みを進める会議をこどもたちと一緒に考える されたことが1つありました。防災の取り組 の学習会など盛りだくさんの取り組みでした。 イバルクッキング、命の大切さ、防災の心構え 舎4Fでの避難所設営、限られた食材でのサバ れました。災害が起こったことを想定して、校 日に鶴見橋中学校の体育館で防災合宿が行わ 最後に、木下先生との話の中で気づか レポ 卜:寺嶋公典



"生協立"と"地域立・市民立"3つの共通点

(1) ニードが事業を生み出す

特別支援学校を卒業すると重症心身障がい児には日中の居場所がない。こんな相談を受けて始 まった重心通所施設「さくら」。介護保険開始前から組合員の"老い"の不安に応えようと始めた訪問介護事業。

設立のきっかけは高齢者の孤独死。高齢者の孤立防止のために地域ボランティアも立ち上が り「配食サービス」がスタート。法制度が未整備の時期に、手弁当のニーズ調査をふまえた「障害者デイサー ビス」や就労支援事業「アスタック」を開始。

② 地域で実現、24 時間 365 日の安心提供

新たに始めた安心システムは「24時間365日の地域生活を支えきる」という発想からスタート。 すべての人が「地域づくりの担い手」であり、「参加の機会」と「制度外サービス」を助け合いのなかで作ろう としている。

ヒューマン 地域を拠点とする24時間365日の在宅介護サービス付の高齢者住宅「アイビスコート」では、 入居者のみなさんに役割と出番を提供し、その潜在能力を発揮してもらえるような暮らしの場づくりをす すめている。

③トップの想いが熱い

風の村 池田理事長が熱い。「制度なき社会福祉の中心選手として NPO が活躍する中で"地域支援事業" に社会福祉法人はどう向き合うべきか「非課税とされる社会福祉法人のあり方として"地域福祉支援積立金" の導入を決意した」など、社会福祉法人の使命を強く意識したメッセージを伝えてくれた。

摺木理事長も熱くて鋭い。視察では、两成区と千葉県の社会環境の違いからサービスのあり 方も変わると指摘。生活困窮者の割合が高い西成では「手帳を持たない障がい者」≒「発達障害者」に対する シームレスな支援の重要性を訴え、福祉だけでなく労働・教育施策も活用した支援拠点づくりの試みも紹介 した。



応援し、 の 各事業所で 多様な 働きた ーサ に取り組む 制度の 働き方を提案す 支え 就労」そ あらゆる き して 心 る

など約 80 職員数 障が 数 3 業を統合し、2004年に設立 倶楽部 千葉県北部を中心に、 8 と社会福祉法人たすけあ 0 児童、 5 0 の事業を展開。 0 ク事業(19 生活困窮者支援 人の千葉県屈指 事業高52億 8 年~) 高齡、 が事 Ą 用 9

の 働きにく まを埋める 人の参加を 地域の 1.1 ュ

|谷口円1四季の中で秋が一番好きです。|すこん 肌寒い風が吹くだけで、自然と顔がにやけるくら い好きです。なのでたぶん秋の私は少く怪しい人 ですが、私はすこぶる幸せです。

の

村

の概

「なび!をつくるし株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいる 多様につながる実践を紹介していきます。

ヒューマンライツ福祉協会





ざま

ĺ

い

当協会はこの地で「福祉

で ま

り」を理念に掲げ、

成には日雇労働市場や被差別部 部事務局総務部部長)です。

外国人集住地があり、 な社会問題が集積

さ

(以下ヒュ

・マン)

の

ハメハメ 12 月に民設民営の隣保館「スマイル ゆ~とあい」(正式名称:にんなり隣保館)が完成します。 同館の 4-6 階 には応能型減免家賃制度(※)を導入するサービス付高齢者住宅もオープンレます。「公営住宅でもないのに応能型?」と 思われるかもしれませんが、このサ高任を運営するのが"地域立、市民立"の、社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会 今月はそんなナイスな仲間を紹介します。 ※入居者の所得や支払い能力に応じて家賃を減額する制度

底したニー

主義で高齢者・

障 徹

からの地域と福祉に

は欠かせない

という展望」

者サ

・ビスを中

・心に約

40

の

を共有で

ま

池田理事長の

「人材不

足が急に改善するとは思わない。

それよりも

想

に共感して『福祉業界で働くなら風の村』と選

んでもらえるようになりたい」

という言葉に共鳴

ŧ

社会福祉法人 トューマンライツ福祉協会

確保、 なる想いを職員に 模拡大に伴う 創立20周年を迎えま いており、今年12月に かに浸透させる す。その一方で、 事業高は 19億円、 事業を着実に展開 てきまし 0 いう課題を抱えて 創立の 八の職員が た。現在 原 人材 点 働 の L

上 ュ マンライ 祉協会とは ッ

の

村 ^

の視察





: 風の村との意見交換 下:風の村の取り組みを説明する池田理事長

風

手で の活動から生まれた (以下風の 村 を訪問 してきまし

るではなく 地域立・市民立』の当協会が抱える課題解決の 意見を交換する中で、 トを探しました。 も守る〟姿勢」「〝お互いさま〟 月末に私たちは社会福祉法人生活クラブ風 の安全にこだわり続けた生協活動。 *社会福祉法人のミッション (使命・思 "生協立"の「風の村」 「安易に経営 という互助がこ た。 (お金) 市民自 を守 か そ のの



【田岡秀朋】共向連の全国大会で教えてもらった いい言葉。勉強になります。安積さんの「もうー 度、出会いなおしをしよう」石澤さんの『社会的 事業所のような地域をつくろうと



飯島照喜し障がい者の団体の大会に札幌に行ってきま れた。さすがに大阪とは違い気温イブ度とちょっと肌寒く、 **晩秋という感じでした。だが、障がい者の方々のイベン** 人は夏の熱気がまだ残っているほど活気がありました。

今月の花:コスモス(秋桜) 花言葉「乙女の真心」 「調和」「謙虚」 葉は線のように細いが、強風 で倒されても、茎の途中から根を出しまた、立ち上がって、 花をつけるほど強い。

幸せそうな犬を見て、安心して帰りました。「なんで ています。その犬を一目見たくて訪ねてきましたが、 は、今では、大きな会社の番犬として幸せにくらし 行って、犬だけ残されてかわいそうでした。そ 今」と思いました。遅いねん! を見せてくれました。家族みんながバラバラに出て 何年か前に隣に住んでいた奥さんが久しぶりに顔 (なんばひとみ) の犬

季節外れの出逢い

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や えしたいと思っています。

スちゃ

ん!

つ

と声がした。

私の耳がビク

ッビクッと動い

た

逢いたかったよ!っと声がした。

hidarimak

私の耳がビクッ

と動いた。

はじめま

してっ

と声がした

笑顔の私が座ってい 笑顔のひまわ ひまわりの種 笑顔のお母さんが居た お母さんが2ヶ ベランダに ベランダに ベランダに

が咲いて

私に逢いにきてタ 無事に咲いて

私の夏は 季節はもう秋だけど

もう少し続きそうワンワン。

思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝

私は辺りをキョロキョロした。

赤井まゆみ

佐々木です。田岡君が「奥の細道」ならぬ「僕の細道」などというタイトル を捏造し、仕事を増やしてくれました。再デビューです。

月前にまい

国家の法螺

かみかぜもぎょくさいもみな鳥脅し

ペリーの亡霊

黒船がなお睥睨する盂蘭盆会

権力を嗤う

法師蝉盛者必衰のあわれ啼

新学期まぢか 夏休み果て子らが見るカレンダー



「痛税感」を和らげるということ

一体的改革」だったはずだが てしまうから「税と社会保障の 「逆進性」、つまり格差を拡大

に矮小されてしまったから、

()

れ、「転んでもただでは起きない 額等生活保護の減額と重ねら

限定してこそ福祉は成り立つが、

て、ボクは共感した。対象者を い」という踏み込んだ発言もあ

> ㈱ナイス代表取締役 富田一幸

ると、

公明党の顔を立てる政治

度

か

ら抜け落ちた求職者や不安

()

る高齢者や障がい者より、制

障制度がそれなりに整備されて

う障がい者運動の全国大会に参

先日、北海道で「共同連」とい

も思ってきた。それも、 人には我慢してもらうべきだと

社会保

案が欠陥だらけだったことをみ 国会で議論されている。財務省 配るか、消費増税の軽減措置が 収後に低所得者だけに給付金を 付するという財務省案か、

的取引だったのではと勘ぐって

そもそも、

消費増税は

る施策の財源にすべきだと思っ 定雇用の労働者等にこそ波及す

T

きた。だから生活困窮者自立

支援法なのではと言われるだろ

窮者施策への統合も考えても良

めるだけで良いのか、

社会的困

いか」と少々過激な?発言や、 援法は支援者のための法じゃな 加したが、「生活困窮者自立支

つまでも障がい者施策を求

結局この法も、

住宅扶助

人間のしあわせ、福祉のあり方、そ して新しい社会の結びつきを求め て、これからも「いい湯かげん」の テーマ探しに出かけます。

[若松司] 気骨ある大先輩にも怖気づかずにモノ



(複数)税率」で食料品等を8%

るものは少ない

ま、三つの案を論じあって

得

①公明党との約束通り「軽減

に据え置くか、②10%徴収し

た

ボクは、社会保障改革なし

の

練や就労支援、生活支援の財源

う。 等、

革を試みてもミスマッチばかり。

に回したら良い。民主党ぐら

国民一人あたり年間5000円 こと、軽減税率も還付もやめて、 まらない。だったら、いっその

何かしらの「パスポー

」がな

いと、通勤手当も控除されない

社会保障も素通りしてしま いままでの常識で施策や改

に、ポジションは「自営」となり、 般的な働き方」になっているの

を「働きたい人々」への職業訓

して一律年額5000円程度還

③ 徴

す

ベ

きで、相対的に所得の高い

が、

せめてそんな議論でも

T

要があるとつくづく思った。 ちょっと頭を切り替えてみる必

れないかと思う。

感の緩和措置は低所得者に限定 消費増税には反対だった。痛税

後、マイナンバー

カー

ドを活用

いま、

政治の課題は「格差是正」のはず

4

一律還付なんだから格差は縮

れほどの効果があるのか、それ

労働者も「転落」ではなく、「

年間5000円還付されてど

られてしまって、

効果が半減し

それも500億円の大半が相談 政治的取引にされた気がする。

限定すると「切る/

分ける」と

いう副作用も出る。もう一つ「大

事業等の支援者の人件費に充て

[安田拓也]教育は背中でするもの。それに憧れ や使命を持って動きだす。そんな"ポジティブな 学び"に出会えば先もずっと楽しいはず。そして 教育は"共育"している方がワクワクする!

「権力介入」という副作用が出 のだが、マイナンバーになると きな」対象者限定があれば良

T

しまう。しかし、

いまや非正規

西成北沙宁。

「ナイスな明日をつくろう!」編

勉強を学び、遊びを学ぶ まなびサポート事業

こども樂塾

学習につまずきやすい小学3・4年を対象に、宿題を中心とした学習の習慣づけや、楽しく学ぶ工夫を身に付け、学習に限らず子どもたちのつぶやきの空間をつくります。

【申込・お問い合わせ先】

市民交流センターにしなり 606-6561-0007

期 間:2015年10月6日(火) ~2016年3月29日(火)

時 間:午後4時30分~6時30分

場 所:大阪市立市民交流センターにしなり2階213

対 象:小学3・4年生

参加費:無料

定 員:8名(先着順)

安倍政治、戦争法案に大反対!

全国で100万人、 大阪で2万5000人が集会・デモ

今年の7月16日、いわゆる『安保関連改正法案』が衆議院で可決されました。次は参議院での議決・・・というところですが、参議院が7月16日の60日を経過しても議決しない場合は、衆議院で再可決できる『60日ルール』があります。つまり、9月14日以降、衆議院で再び可決されれば法律として成立します。集団的自衛権の行使が戦争を認めることにつながり、「戦争放棄」「戦力の不保持」「交戦権の否認」から構成される憲法9条の「平和主義」違反であると、再可決を食い止めようという動きが全国各地で起こっています。

8月30日(日)には扇町公園にて「安倍政治を許さない! 戦争法案を廃案に!8・30おおさか大集会」が開催され、 会場にはおよそ2万5000人が結集。若者から高齢者、こ どもを連れての参加など、反対する多くの市民や団体で会場 が埋め尽くされました。なびスタッフたちも参加しました。









あとがき

暑いと思っていたら急に涼しくなり、気づいたら今年も残り3ヶ月です。私と「なび」の関わりは古く2007年1月に発行された「なび創刊号」です。現在も表紙で使われているロゴデータ(作画:hidarimaki)の作成などをお手伝いしました。第6号の表紙写真は当時3歳の息子がお風呂の壁に描いた「父の似顔絵」でした。その息子も小学6年生、再び「なび」の編集に関わることになり、時間の流れの速さを改めて感じます。 (沖田)

なび10月号(vol.104)

発行日: 2015年10月1日(創刊日: 2007年1月1日)

発行:株式会社ナイス 発行人:代表取締役 冨田一幸 印刷:有限会社前山企広

住所: 大阪市西成区長橋 3-6-33 電話: 06-6563-1156

E-mail: info@nice.ne.jp url: http://www.nice.ne.jp/

編集長: 寺嶋公典

編集:飯島照喜、沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、西田吉志、

安田拓也、若松司(あいうえお順) イラスト: hidarimaki デザイン:谷口円